

# メキシこけし展示会 2018年3月 名古屋市市民ギャラリー矢田

メキシコ観光局の方に教えて頂いて行ってきました。  
研究がきっかけでメキシコに行くようになり、最近はずっかりメキシコファンです。  
チャリティの販売もあり、2体のメキシこけしを入手！  
会場の様子をご紹介します。

## MEXIKOKESHI

2018.3.7<sub>wed</sub> - 3.18<sub>sun</sub> NAGOYA 休館日12日 入場無料



ゲレロ州の先住民族  
ナウアのヤシの製糖職人  
Victor Precopio Serrano  
のメキシこけし  
木地・竹藪漆工入

### メキシコ×こけし=メキシこけし

「メキシこけし」とは、「メキシコ」の様々な先住民族や工芸職人が絵付けをした「こけし」のこと。このプロジェクトは東日本大震災を契機に、実家が宮城県で、現在はメキシコ政府観光局に勤めるCHIDO PROJECT志田朝美氏により2011年冬に始動し、東北発祥の文化「こけし」に復興の願いを込めて作られた「メキシこけし」の展示会が日本各地で開催されています。

東北の伝統こけし工人在が挽いた木地にメキシコの工芸職人達が日々の手芸品作りの技法を活かした絵付けをする—  
そうすることで、東北のこけし文化とメキシコの伝統工芸双方の支援に繋がればとの願いも込められています。



ハリスコ州の  
Maitte Ibarra  
Morales氏作  
メキシこけし  
木地・竹藪漆工入





彼を購入

土浦系  
野矢 里志



角がサボテン



ミゲル・アンヘル・オルテイス  
ダニエル・グマイレス  
(ダニエル・グマイレス)

彼の作品が世界一有名なのは、アメリカのテキサス州オースティンで開かれたことでも知られるタヌキは、18世紀に開拓者の大嵐山が捕獲された。シムルン・ファン・ファンで来た。そのために、タヌキはメキシコ国内でも多くの動物園に輸入が重なっています。今年メキシコでは、オースティンで開かれたオースティン・タヌキ展。2014年に開催。グマイレスは、2012年に東京で開催された同名展覧会「オースティン」のオースティン・タヌキ展の開催。グマイレスは、オースティン・タヌキ展の開催をオースティン・タヌキ展で開かれた顔や手があしらわれています。

ハブコ・ニコラス  
(ダニエル・グマイレス)

アマの顔。アマはメキシコで最も有名な顔の一種です。エフタロ・パレスに似た顔で、シムルン・ファン・ファンを顔として描かれました。顔で描かれていた。顔の表情は、顔の表情の生活様式を映し出したものであり、顔の表情です。シムルン・ファン・ファンは、アマの顔で顔の表情に描くことから「写真顔」または「顔の表情」の顔の表情を表現して描かれました。

「死者の日」っぽいコケシ  
もうすぐ「remember me」  
が公開ですね。



メキシコならではのジャガー信仰



右のコケシの頬はサボテン（ペヨーテ）  
の形を模しているそうです。





作並系  
平賀輝幸

# 東北・メキシコ 文化融合

## 東区で「メキシこけし」展示

日本  
震災  
7年

東北の伝統こけしの木地をメキシコの職人が絵付けした「メキシこけし」の展示会が、東区大幸南一の市民ギャラリー矢田で開かれている。東日本大震災の被災地を支援しようと、宮城県出身でメキシコ在住経験もある女性が企画。異文化の絶妙な融合が、不思議な魅力を放っている。

ラテン系の民族衣装を想起させる赤や青、黄色の鮮やかな色柄や幾何学模様が施されたり、銀細工のドレスを

まとったり。顔はまつげが長く、目鼻立ちもはつきり。会場の人形は一見、日本とは縁遠くも、見慣れたこけしシコ観光局職員

のシルエットはどれだ。企画したのは、メキシコ観光局職員の志田朝美さん(三三)＝宮城県塩釜市出身、東京都豊島区在住。米国で働いていた時のルームメイトがメキシコ人だったことがきっかけで、二〇〇六年から一年間、メキシコの旅行会社で勤務した経験がある。

フリーライターをしていた一一年、東日本大震災が発生。被災したり、観光客が減って販路に苦しむ工人を支援する活動「こけしえん」を、ツイッター上で見つけた。

既にメキシコから支援物資が届いていることも知っており、「こけし」で被災地支援しながら、恩返しのためにメキシコ文化を発信したい」と、「メキシこけし」を考案した。

東北の「こけし工人」と呼ばれる作り手を回って趣旨を説明し、木地を購入。メキシコの著名な職人や陶芸家、先住民族に掛け合っ、絵付けや加工をしてもらって買い取る。東北の工人には、メキシコをイメージし

たこけしもあった。これ百体以上がた。

展示は一メキシコにある仙台市で開いてシコ市と姉古屋は六合さんは「一日の伝統文化けしと、方に興味をけにしてほす。入場無料で。十一千円程度の一部をを



伝統こけしとメキシコの絵付けが融合した「メキシこけし」を紹介する志田さん＝東区大幸南一の市民ギャラリー矢田で

### 被災地警備 振り返る

中川

東日本から七年

昆布、00分、甘酒1縮だしたし

しめ

## MEXICO × KOKESHI = MEXIKOKESHI

『メキシこけし』とは、東北の伝統こけし工人在「メキシコ」をイメージして作った「こけし」、そして「メキシコ」の様々な先住民族や工芸職人が絵付けをした「こけし」のことです。

このプロジェクトは東日本大震災を契機に、震災からの1日も早い復興を願い、2011年の冬に始動しました。現在はこの『メキシこけし』の展示会が日本各地で開催されています。

また、東北の伝統こけし工人在が挽いた木地にメキシコの工芸職人達が日々の作品作りに用いる技法を活かして絵付けを施した『メキシこけし』をとおして、メキシコの手工芸の多様性をご覧頂く場を設けることで、当時日本をいち早く支援してくれたメキシコへの恩返しに繋がればとの想いも込められています。

“MEXIKOKESHI” is a cultural project devised to support reconstruction after the big earthquake occurred in the region Tohoku, north part of Japan in 2011. ‘Kokeshi’ dolls are originally from Tohoku, and MEXIKOKESHIs are those made by Japanese kokeshi craftsmen but inspired in the deep spirit of the Mexican culture and traditions. There are also the MEXIKOKESHIs, which are the traditional wooden dolls of Japan but painted and decorated by Mexican artisans that use their special sense of beauty and tradition. It is through this unique blend of traditions, that many people can see the richness of Mexican techniques and the diversity of the Mexican handicrafts through kokeshi dolls. These MEXIKOKESHIs have been exhibited in various cities in Japan.